

# ●竹島土産

一行五十名は既記の如

く二十七日午前八時竹島着直に上陸十數名各方面に分担調査を了へたるが豫ねて噂ありし如く海驢群棲せるを以て一行は網叉は銃を以て或は打撲して其拾頭を捕獲(一内一頭は生擒)し三頭を船に積載し午後二時三十分出帆せるが同島には海苔の産するを見たり斯くて午後八時頃鬱陵島の芋洞に着一部は直に上陸せるが道洞よりは日本警官及郵便局長人民等船二隻を舩して歓迎せり依て同島の郵便局長片岡某氏の家(一宿)を請ひ一部は汽船に泊し拂曉を待て上陸し一同郡守を訪問し本邦人巡查部長の通辭にて島の情況を尋ね夫れより一部は島内の一部は沿海の何れも調査をみし午後八時解纜翌二十九日午後四時三十分西郷着官民有志の歡迎會に望み翌三十日午前十時出發午後三時三十分境着直に汽船を乗り換へ同七時過ぎ歸せしありと▲神西部長は隠岐國調査の爲め中島大野二縣屬を伴ひて瀧島せり▲竹島に於て獲たる海驢三頭の中一頭は一行に於て料理し一頭は鬱陵島の郡守に贈り一頭は衛生上の研究材料として牽き歸ることあり昨日境より贈り來りしを以て目下衛生試験場に於て繋留しあり▲神西部長は鬱陵島に到り郡守を訪ふて「余は大日本帝國島根縣の勸業に従事する役員なり貴島と我が管轄に係る竹島は接近せり又貴島に我が邦人の滞留するもの多し萬事につき懇情を望む又貴島を視察するの豫定あれば何か進呈すべきものを携帶すべかりしを今回避難の爲め偶然にも着島せし譯にして何も贈呈するものなし幸に茲に竹島に於て海驢を獲たれば贈呈せんとす受納あらば幸甚」と郡守答へて曰く「然り滞留の貴邦人に就ては余に於て充分保護すべし又海驢の贈呈を受く若し海驢にして味美ありせば再び贈與を望む」云々